2025 年 数理情報系女子学部生サマーキャンプ 開催報告書

2025 年 9 月 7 日（日）から 9 月 9 日（火）までの 3 日間、東京都にある八王子大学セミナーハウスにて、「数理情報系女子学部生サマーキャンプ」を開催しました。このサマーキャンプは、身近なロールモデルの少ない数理情報系学科に所属する全国の女子学部生が参加対象であり、交流の機会作り、大学院進学や修了後のキャリアの応援、学部生や大学院生とのディスカッションの場の提供を主たる目的として企画したものです。昨年度に初めて実施した「数理情報系女子学部生サマーキャンプ 2024」に続く 2 回目の開催となりました。

本プログラムは、2024 年度及び 2025 年度に理研にいただいた寄附金の支援を受けて実施され、2025 年度は、以下の企業・団体よりご支援いただいています。

本イベントでは、理数系を学ぶ女子学部生がキャリアについて考え、多様な分野で活躍する女性研究者や先輩である大学院生との出会いの場を提供します。また、全国から集まった同世代の仲間とつながり、将来につながるネットワークを築くことも目的の一つです。未来の研究者・技術者を育むこうした取り組みにご賛同いただきました企業・団体の皆さまに、心より御礼申し上げます。

協賛企業：三菱 HC キャピタル株式会社、株式会社 バオバブ

株式会社バオバブ

【イベント名】数理情報系女子学部生サマーキャンプ
【主催】慶應義塾大学理工学部数理科学科、東京科学大学、東京大学大学院数理科学研究科、広島大学 WPI-SKCM2、理化学研究所革新知能統合研究センター

【開催日】2025 年 9 月 7 日～9 日

【開催場所】大学セミナーハウス（東京都・八王子市）

1 日目：9 月 7 日（日）

＊13:00～　オープニング、13:10～　参加者の自己紹介

理化学研究所革新知能統合研究センター（以降、理研 AIP）杉山将センター長からビデオメッセージを、また東京大学大学院 数理科学研究科 教授 平地健吾先生のご挨拶から始まり、東京科学大学大学院 理学院 准教授 谷田川友里先生から、今回のサマーキャンプ開催の背景や目的、主催団体およびご寄附をいただいた企業の紹介があり、プログラムの説明がありました。それに続いて、参加者が 30 秒ずつの自己紹介を行いました。

＊13:55～　アイスブレイク

同じ部屋で過ごすメンバーで結成されたチームに別れてアイスブレイクを行います。2 つのサイコロを使うゲームで、課された条件を満たすように戦略を立てて、各チームで総当たり戦を行いました。初めて知り合った人同士でしたが、チームワークがすぐに形成された印象があり、皆さんゲームを楽しんいる様子が伺えました。

＊14:25～　基本情報の共有（1）

広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授 小鳥居祐香先生より、「学部でのスケジュール・大学院についての基本情報」と題した講演がありました。学部教育から大学院進学、博士後期課程までの流れを中心に、以下の内容について説明がありました。

学部での学習については、3 年生までは基礎的な内容の履修が中心となり、4 年生では研究室に所属しつつ、大学院との共通科目を受講する場合が多いことが紹介されました。学部卒業後に就職する場合は、2 年生から企業分析を進め、3 年生から本格的に就職活動を開始することが一般的であると説明されました。大学院修士課程に進学する場合は、主に学部 4 年夏に実施される大学院入試に向け、3 年生から準備を行うことが勧められました。修士課程の 2 年間では、科目の単位取得に加え、修士論文の提出が求められます。また、修了後に就職する場合は修士 1 年から就職活動を開始し、博士課程へ進学する場合は修士 2 年までに研究テーマの方向性を検討しておく必要があると述べられました。

博士後期課程では、学術誌に掲載される水準の博士論文の執筆が求められ、投稿先の選定も重要となる点が示されました。さらに、進路選択にあたっては、相談できる相手を持つことが重要であること、研究を進める上では幅広く数学に触れ、継続的に学ぶ姿勢が大切であることが強調されました。

＊15:10～　キャリア講演（1）

大学院生・企業研究者の方々より、「大学院での研究と大学院生活」をテーマとした講演を行っていただきました。

- **東北大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 1 年　金子柚月さん**

研究分野である数学基礎論（逆数学）について説明がありました。数学の多くの定理が五つの体系に分類されること、その一体系と記述集合論・再帰理論との関連を学んでいることが紹介されました。また、大学院での 1 日の過ごし方や 1 週間のスケジュール、大学院進学に至る経緯についても共有されました。院生室の写真を交えた説明からは、大学院生活の具体的な様子が伝わりました。

- **大阪大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 2 年　八木雪野さん**

専門分野である超平面配置についての概要に加え、他大学院への進学を目指す際の情報収集や院試対策、学部 4 年から修士 1 年にかけての大学院生活の流れが紹介されました。進路選択に悩んだ経験にも触れつつ、研究を継続したいという思いから博士課程進学を希望していることが述べられました。最後に「自分の好きなことを大切にしてほしい」というメッセージが参加者に向けて送られました。

- **東京大学大学院 数理科学研究科 博士 3 年　今井湖都さん**

研究分野である整数論・類体論の概要や、類体論を非可換ガロア拡大へ拡張する研究テーマについて紹介がありました。また、博士課程での 1 日・1 週間の過ごし方、B3 から M2 までの進路の流れ、コロナ禍での修士論文執筆や休学の経験についても説明がありました。最終的に企業への就職を選択したことが述べられ、「自身の長所を活かすことが重要である」との助言で締めくくられました。

- **株式会社 NTT データ数理システム データマイニング部 主任研究員　中島ミホさん**

大学・大学院で超越数を研究していたことに触れつつ、現在の業務内容として、データ分析に関する伴走支援や多様な業界の顧客との協働について説明がありました。企業概要やデータ分析を通じた課題解決の流れにも触れ、数理科学の学習・研究が業務にどのように活かされているかが示されました。最後に、数理科学は幅広い領域で活用可能であり、各自が望む進路を選んでほしいとのメッセージが述べられました。

- **NTT 株式会社 ネットワークサービスシステム研究所 特別研究員 橋本悠香さん**

修士・博士課程で取り組んだ数値線型代数の研究について、行列計算や微分方程式解法に活用される効率的アルゴリズム構築の観点から紹介がありました。現在の研究である作用素環論を用いたデータ解析についても説明があり、数学理論をデータ解析に応用する際の課題や研究の魅力にも触れられました。最後に、数学理論のデータ分析への応用は発展途上であり、興味を持って取り組んでほしいとのメッセージが示されました。

＊17:05～　基本情報の共有（2）

東京理科大学 経営学部 ビジネスエコノミクス学科 准教授 今村悠里先生より大学院生・教員・社会人を対象としたアンケート結果をもとに、研究室選択のポイントやアドバイス、研究および業務に関する基本的な情報について説明がありました。

研究分野を把握するための手段として、日本数学会の分科会ホームページや分野別メーリングリストの活用方法が紹介されました。また、博士課程における経済的支援制度として、日本学術振興会特別研究員（DC)、理化学研究所 JRA、JST の各種プログラムが挙げられ、加えて博士課程修了後の進路として、日本学術振興会特別研究員（PD）や理研 SPDR についても説明がありました。

さらに、長期的な体調変化を含むワークライフ・インテグレーションや、トラブル時の相談先に関する情報にも触れられました。講演の最後には、自身の興味関心を大切にし、好きな物事を追究する姿勢の重要性が強調されました。

＊17:35～　パネルディスカッション（1）

以下のパネリストの皆さんに参加者からの質問に答えていただきました。

- 東北大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 1 年 金子柚月さん
- 大阪大学大学院 理学研究科 博士 2 年 八木雪野さん
- 東京大学大学院 数理科学研究科 数理科学専攻 博士 3 年 今井湖都さん
- NTT 株式会社 ネットワークサービスシステム研究所 特別研究員 橋本悠香さん

- 武蔵野大学大学院 工学研究科 数理工学専攻 修士 1 年 白川桃子さん
- NTT コミュニケーション科学基礎研究所 宮島里奈さん

Q. 専攻分野をどのように決めたか

- 元々分野は漠然と意識していたが、その分野の先生の授業があった
- 受験数学で興味を持った分野の延長として選んだ
- 数学の応用に興味を持った
- 人と違う分野に進みたかった
- 3 年次の授業内容に興味を持った

Q. 数学書を読めるようになるには

- 最初に全体像をぼんやりと掴む
- 仲間と自主ゼミを開く、周りの仲間を巻き込む
- ここまで読めたら良いという範囲を決めておく、1 冊を通しで読もうとしない
- 特に専門性の高い書籍は研究等に必要な範囲等に絞って読む
- 学習相談室等を利用する

Q. 学部 1,2 年生が自主ゼミに使うのに良い本は何か

- 松本幸夫 著『多様体の基礎』、東京大学出版、1998。
- J. - P. Serre 著、 彌永健一 訳『数論講義』、岩波出版、2017。
- 雪江明彦 著『代数学』『整数論』シリーズ、日本評論社。
- M.F.Atiyah 著、 I.G.MacDonald 著、新妻弘 訳『Atiyah-MacDonald 可換代数入門』、共立出版、2016。
- 学会誌の読みやすい欄

Q. データ解析に興味があるが、教員免許も取るべきか

- 教職課程においても学びはあった
- 安心材料にはなった
- 結局使わない人も多い
- やりたいことの優先順位を決めて、無理のない範囲で取り組むと良い

＊19:35～　グループワーク（1）

学部生、大学院生、教員、社会人が混在する 6～7 名のグループを構成し、各グループで以下の議題について討議を行いました。

ワークⅠでは、学部生は数学・情報分野で関心のあるテーマについて、大学院生・社会人・教員は研究に至るまでの興味の変遷や研究テーマの魅力について意見交換を行いました。さらに、グループ内で当日の講演を通じて新たに関心を持った分野についても議論しました。

ワークⅡでは、学部生および大学院生は卒業・修了後のキャリアプランについて、教員・社会人は在学中に考えていたキャリアプランについて意見交換を行いました。加えて、グループ内で大学院進学やキャリア形成に関する考察内容を改めて共有し、議論を深めました。

＊21:00～　夜ゼミ・個別相談会

初日のプログラム終了後、同会場において参加者が参考書等を持ち寄り、数学に関する議論やキャリア相談を行う時間を設けました。学部生からは、「博士課程に進学すべきか」「奨学金や研究費はどのように得られるのか」など、進路に関する具体的な質問が寄せられました。夜遅くまで、学部生・大学院生・社会人・教員が垣根を越えて悩みや将来像を共有し、活発な交流が行われました。

2 日目：9 月 8 日（月）

＊9:00～　オープニング

お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系　准教授 篠田万穂先生からご挨拶をいただき、その後、1 日目途中からの参加者および 2 日目の朝に合流した教員・社会人の方々の自己紹介が行われました。

＊9:05～　キャリア講演（2）

- 新潟大学大学院 自然科学研究科 数理物質科学 修士 1 年　高松千恵さん

高松さんは専攻分野であるトポロジーについて紹介し、高校生の際に読んだ『数学ガール　ポアンカレ予想』（結城浩著、SB クリエイティブ、2018 年）がこの分野に興味を持つきっかけとなったことを述べました。大学院生活については、研究室選びの際にはゼミの雰囲気を知ることが重要である点、大学院進学を決めた理由として「学部で学んだ理論をさらに深めたいと感じた」ことを挙げました。外国語や国際交流にも関心を持ち、将来は日本人学校の教員として活躍することを目標としているとのことでした。講演の最後に示された「(特に地方在住者は）行動することが大切」というメッセージが印象的でした。

- 熊本大学 自然科学教育部 理学専攻 博士 1 年　山下美紀さん

山下さんは、専門とする力学系（特に記号力学系）について紹介するとともに、大学院生活の 1 日・平日／休日の過ごし方を円グラフで示し、具体的な生活のイメージを共有しました。修士論文は修士 2 年の 12 月から執筆を開始し、翌年 1～2 月は論文執筆や院試準備で多忙であったとのことです。また、生活支援制度にも触れ、熊本大学が国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択されていること、その一環として「Better Co-being」プログラムにより博士後期課程学生への生活支援が実施されていることを紹介しました。修了後はアカデミアに残り研究を続けたいとの希望が述べられました。

- 大阪公立大学 理学研究科 数学専攻 博士 3 年　溝口史華さん

溝口さんは、大学や大学院への進学を周囲から反対された経験を乗り越え、自身の意思で進学を決めた背景について触れました。研究対象はリー群上の特別な左不変幾何構造であり、その中で扱っているクイバー（多重辺やループを許す有向グラフ）から新たに構成したリー代数に対して得られた複数の研究成果を紹介しました。また、修士 1 年時に掲げた目標を大学院 5 年間で達成したことが共有され、非常に力強い講演となりました。将来は大学に残り研究を続けたい意向が示されました。

- 一般企業（コンサルティング）　落合琴美さん

落合さんは東京工業大学（現・東京科学大学）理学院数学系の修士課程修了後、現在はコンサルティング会社の金融部門で勤務しています。学部時代の専門はトロイダル・リー代数（アフィン・リー代数の拡張）の表現論であり、その選択は学部 2 年時に加群論を扱う自主ゼミで表現論に触れたことがきっかけだったとのことです。就職活動については、院生室で隣席だった先輩からの

勧めで就活サイトに登録し、インターン参加を経て就職の意志が固まった経緯を紹介しました。数学専攻が現在の業務において有利に働いている点として、物事を構造的に理解する姿勢が身についていることや、数学出身者とのコミュニケーションで話題に困らないことなどが挙げられました。

キャリア講演の後、東京科学大学 社会連携・DE&I 本部 マネジメント教授の野村淳子先生よりご挨拶いただきました。

＊11:00～　大学院生によるポスター発表

以下の大学院生が、自身の学習内容および研究内容を A0 判のポスター 1 枚にまとめて展示し、参加者に向けて解説を行いました。ポスターの作成者および題目は次のとおりです。

- 筑波大学大学院 数理物質科学研究科 数学専攻 修士 1 年　隠崎けいさん

「Gröbner 基底が持つ良い性質について」

- 広島大学大学院 先進理工系科学研究科 数学プログラム 修士 1 年　柏原藍さん

「結び目理論におけるノットイドについて」

- 大阪公立大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 2 年　北山陽菜さん

「クイバーとリー代数」

- 東京大学大学院 数理科学研究科 数理科学専攻 博士 1 年　佐藤ふたばさん

「作用素環論の立場から見た量子群」

- 武蔵野大学大学院 工学研究科 数理工学専攻 修士 1 年　白川桃子さん

「会話分析に基づく興味関心抽出と最適トピック提案：Zero-shot learning と感情評価の統合」

- 芝浦工業大学大学院 大学院理工学研究科 システム理工学専攻 修士 2 年　瀬川愛夢美さん

「Turing パターンを再現する離散モデル」

- 名古屋大学大学院 情報学研究科 数理情報学専攻 修士 2 年　出口絢結さん

「2 次多項式を用いた虚 2 次体の類数の特徴付け」

- 津田塾大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 2 年　中村樹さん

「岩澤の類数公式」

- 金沢大学大学院 自然科学研究科 数物科学専攻 修士 2 年　前田恵里さん

「平均場方程式に関連する Mountain-pass 構造」

- お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 数学コース 修士 1 年　丸山真穂さん

「AES 暗号と CIPHERUNICORN-A の S ボックスの比較」

- 京都大学大学院 理学研究科 数学教室 修士 2 年　森山奈緒さん

「極小モデル理論 －複雑な図形をシンプルにする」

- お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 数学コース 修士 1 年　山下櫻薫さん

「sl(2, C) でみる BGG 相互律」

- 大阪公立大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 2 年　山下裕理さん

「位相群と軌道空間」

＊13:20～　チームビルディング研修

この時間には、グループごとに分かれてマシュマロチャレンジに取り組みました。昨年度も同様の活動を実施しましたが、昨年の最高記録が約 50 cm であったのに対し、今年は 69.5 cm の記録が達成されました。昨年度のサマーキャンプにも参加していた学生が数名おり、前回の経験を今年の成果につなげた参加者もいたものと考えられます。

＊14:00～　基本情報の共有（3）

株式会社ドリームキャリアの高橋華子さんからは、数学分野と社会との関連性、ならびに各専門分野が実社会でどのように活用されているかについて概要が紹介されました。また、数学科出身者が社会で活躍している事例や、数学教育を通じて培われる専門力・基礎力がどのように実務に応用できるかについても説明がありました。さらに、ドリームキャリアが提供するサービスである「理系ナビ」について紹介が行われました。大学という研究環境でアカデミアの進路を身近に感じている参加者に対し、数学系の進路が多様であること、アカデミア以外のキャリアパスを具体的にイメージできる内容となりました。

＊14:30〜　パネルディスカッション（2）

以下のパネリストの皆さんに参加者からの質問に答えていただきました。

- 新潟大学大学院 自然科学研究科 数理物質科学 修士 1 年　高松千恵さん
- 熊本大学大学院 自然科学教育部 理学専攻 博士 1 年　山下美紀さん
- 大阪公立大学大学院 理学研究科 数学専攻 博士 3 年　溝口史華さん
- 一般企業（コンサルティング系）落合琴美さん
- 東京都立大学 経営学研究科 経営学専攻 准教授 八木恭子先生
- 東京科学大学 理学院 数学系 特任准教授 Purkait Soma 先生

Q. おすすめのストレッチはなんですか？：

- アレクサンダー・テクニーク
- ヨガ（実演あり）
- スクワット

Q. 大学によって、分野ごとの院試の難しさは違うのか？

- ある大学では、基礎科目 3 科目と専門科目 2〜3 題を選択して解く筆記試験方式で、幅広い基礎の理解が求められる。
- 基礎科目（線形代数・微積分・位相）を中心に、専門科目は 4 題ほど確実に解けるよう準備していた（難易度変動に備えるため）。
- 基礎科目と専門科目が明確に分かれており、専門科目は 2 問選択式のため、自分の専門に特化して対策した。
- 指導教員に依頼し、口頭試問の対策を行うとよい。

Q. 過去問はどうやって入手した？

・学科事務室に 10 年以上分の過去問が保管されており、コピーが可能だった。

・原則として大学に出向く必要があり、友人同士で過去問を共有して数多く入手した。

・インターネットで過去問を公開している大学もある。

Q. 大学院に合格できなかった場合や希望進路に進めなかった場合、どのように行動しましたか？

・学部時代から滑り止めを考え、博士課程では複数の研究機関を訪問し、奨学金情報も収集していた。博士課程受験では 5 校受験し 4 校に合格した。

・推薦で修士課程に進学した。

・筆記試験で不合格となり口頭試問に進めなかった同期は、直後に就職活動へ切り替え、合否発表前に内定を獲得した。

・他大学を第一志望としつつ、自大学も受験した。教員免許を取得しておくことも安全策になると考えた。

・1 つのことに集中するタイプで、複数を同時に進めるとどちらも疎かになるため、研究に専念した。

・学部時代から語学・教育・社会学など幅広い授業を履修していた。

Q. 学歴は気にした方が良いのか？

- 重要なのは、自分がどの分野にどれだけ興味を持ち、モチベーションを維持できるかである。大学院では優秀な学生が多く在籍していたが、その中でも継続して努力することが大切だと感じた。

Q. 正規留学生はどれくらいいますか？

- 大学によって人数には違いがあることが共有された。

＊15:30～　グループワーク（2）

1 つ目のワークシートでは、研究や大学院に対して抱いていたイメージを言語化し、参加者間で共有しました。学部生からは、「学部よりも専門性が高く、最先端の研究をしなければならないため大変そう」「大学に住み込みが必要なのかと思っていた」「常に 1 人で勉強し続けるものだと思っていた」などの意見が挙げられ、大学院への多様なイメージが共有されました。

2 つ目のワークシートでは、学生生活の中で困難や悩みを経験した事例を共有し、その背景や対処について考察しました。学部生からは、「大学院進学の倍率が高く、不安を感じていた」「一人暮らしで息抜きが難しく、前期の試験期間がつらかった」「就職活動や院試に失敗したくないが、何

から始めればよいか分からない」といった声が聞かれました。一方で、「今回のサマーキャンプのようなコミュニティに参加したことで、進路や大学院像の解像度が上がった」という前向きな意見も寄せられました。

＊17:00～　BBQ

参加者たちで夏野菜やお肉、おにぎりやマシュマロ等を焼いて BBQ を楽しみました。

＊19:20～　ポスター作成

学部生・大学院生・教員・社会人を交えた約 7 名のグループに分かれ、学部生が一人ずつ、自身が思い描く将来のキャリアについてポスターを作成しました。A3 サイズの用紙にペンで色彩を加えながら、各自のキャリア観を表現したポップなポスターが出来上がっていきました。

学部生の中には、すでに具体的な将来像を持つ参加者、大学院進学と就職の間で迷っている参加者、今回のサマーキャンプで触れた専門分野に新たな興味を持ち、その内容を盛り込む参加者など、さまざまな背景が見られました。大学院生や教員・社会人からの助言を参考にしつつ、2 日間の学びを振り返りながら、和やかな雰囲気の中で作業が進められました。

＊21:00～　夜ゼミ・個別相談会

前のプログラムであるポスター作成の続きを行う学部生が多く、大学院生が引き続きその作業をサポートしていました。また、ポスター作成を終えた学部生が大学院生に個別に声をかけ、進路や今後のキャリアについて相談する様子も見られました。サマーキャンプ最後の夜は、参加者それぞれが思い思いに交流や相談の時間を過ごし、有意義なひとときとなりました。

3 日目：9 月 9 日（火）

＊9:00～　オープニング

東京理科大学理学部第一部数学科 准教授 大山口菜都美先生にご挨拶をいただきました。

＊9:05～　ポスター発表

約 8 名のグループに分かれ、前日の夜に学部生が作成したポスターを用いて発表を行いました。大学院生や教員・社会人からも積極的にコメントや助言が寄せられ、活発な意見交換の場となりました。発表内容には、以下のようなテーマが挙げられました。:

「今回のキャンプを通して大学院進学を前向きに検討したいと思った。」

「学部 3 年での早期卒業が決まっており、来年から修士課程に入るので、研究に打ち込みたい。」

「学部卒で就職を考えているが、IT 関係の仕事に就きたい。」

「数学以外に物理学にも興味があるので、力学系の分野に興味が出た。」

「解析、確率・統計、情報数理等の様々な分野に挑戦したい。」

「今回のキャンプでデータ解析、結び目理論に興味を持った。修士まで進学し、そこから就職したい。」

＊10:50～　グループワーク（3）

本セッションでは、学部生・大学院生・教員・社会人を交えた約 7 名のグループに分かれ、5 項目について自己評価を行い、その内容をもとにグループ内でディスカッションを実施しました。

さらに、教員の先生方からは、自責・他責の意識と勉強・研究を続ける上での精神的側面との関係性について、協調性の問題やインポスター症候群の話題を交えながら、心理学・社会学の研究も参照して説明がありました。学部生にとっても、勉強や研究活動において健全な精神状態をどのように維持していくかを考える上で、有益な示唆が得られる内容となっていました。

＊11:50～　クロージング

奈良女子大学 理学部 数物科学科 准教授 嶽村智子先生よりご挨拶をいただき、3 月に予定されているフォローアップイベントの紹介が行われました。続いて、アイスブレイクやチームビルディングの総合結果に基づく表彰が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、主催者である理研 AIP 数理科学チーム チームディレクターであり、慶應義塾大学理工学部数理科学科 教授 坂内健一先生から今回の企画の経緯や意義について説明があり、関係者への謝意が述べられるとともに、民主的で良質な数理情報系コミュニティを協力して築いていくことの重要性が強調されました。

執筆者感想

伊藤歌那　筑波大学数理物質系　研究員

朝から夜までイベントが多かったですが、運営の先生方や事務の方々のおかげで大変盛況でした。御礼申し上げます。今年も中央、地方を問わず、幅広い層の学部生が参加してくれました。自分が学生時代に知っておきたかった情報が多く共有されており、参考になったことも多かったのではないかと思います。数理情報系の女子学生さんはともすれば孤立しがちになり、勉強や将来について深い悩みを抱えることも少なからずあると思います。そういう方こそぜひ参加して、大学院生や教員・社会人と本音で相談に来て欲しいと思いました。参加してくださった皆さんの将来がより良いものになることを願っています。

中村樹　津田塾大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士 2 年

昨年に引き続き、今年もとても楽しく参加させていただきました。積極的に話しかけてくださる学部生の方が多く、また院生同士でもたくさん交流でき、充実した 3 日間となりました。個人的に印象的だったことは、本当にたくさんの大学の先生方・社会人の方がいらしていたことでした。3 日間全てでなくとも、一部のプログラムにだけ参加なさる方もあり、孤独感や疎外感を感じてしまいがちな数理情報系の女子学生にとって、「これだけ多くの大学の先生方・社会人の先輩方が、自分たちのことを応援してくださっている」と実感できることは、どれほど心強いことだったでしょうか。「困ったときはどんなことでも相談して良い」と思える縦と横のつながりを形成できるこのイベントは、数理情報系分野を志す女子学生にとって、とても貴重なものであると改めて思いました。